

伊勢の中世

第 2 8 7 号

伊勢中世史研究会

令和3年9月1日発行

事務局：〒515-2321 三重県松阪市嬉野中川町 1524-121 竹田憲治方

メール takeda@ztv.ne.jp ホームページ <http://mietyusei.bakufu.org/>

棚橋の御頭神事 獅子頭の修繕について 2

前回投稿分（285号）に続き、獅子頭の修繕について、各工程を写真にて紹介したい。

1. 修繕経過 <修繕前状況>



<修繕経過> 剥離部分除却後



<部分写真>



歯部の金色塗料下の黒漆



舌部の接合補修部分（内側）
下顎内側の亀裂補修痕跡
除却した舌部の接合用針金

＜補修作業状況 布着せ作業＞



＜錆付け、堅地塗り作業＞



＜補修作業完了後＞



＜本塗り完了後＞



<修繕完了後>



2. 修繕により新たに判明した点

- ・修繕の中でも獅子頭に記年銘は確認できなかった。
- ・獅子頭は複数の部材を組み合わせた寄木造りで一木を彫り出した造りではない。
今回の亀裂が生じた箇所は、部材を組合せ部分に沿ったものである。
- ・角、耳、眉、舌も別作りで、耳については外側から釘で留められている。
- ・材は針葉樹系で、ヒノキもしくはサワラの可能性がある。把手はカシの可能性がある。
- ・記録の残る昭和期の修繕以前も赤漆であった。
- ・目と歯の金色部分は現代の金色塗料が塗られており、昭和30年代の修繕に伴う可能性がある。
歯の金色塗装の下部には黒漆が確認できた。

3. 棚橋の御頭神事 神事関連道具 作成・修繕記録

今回の獅子頭の修繕に合わせて、棚橋の御頭神事に関連した事象についてまとめると下記の表のとおりまとめた。なお、下表の作成にあたっては、神事関係古文書の分析および神事関係道具の銘文読み作業、神事関係者への聞き取り調査などから作成した。ただし、すべての事象を把握できたわけではないため、記入できていない事象がある場合がある。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ・元禄 2 年 (1689) | 神事関連文書で一番古い銘文の史料 |
| ・元禄 10 年 (1697) | 舞衣作成のため積立開始 |
| ・宝永 2 年 (1705) | 舞衣作成 |
| ・宝永 3 年 (1706) | 獅子頭再造のため積立開始 |
| ・正徳 3 年 (1713) | 産土八王子社（現内城田神社地）造営 |
| ・享保 3 年 (1718) | 獅子頭（大上）、天狗面制作 |
| ・文政 11 年 (1828) | 舞衣作成 |
| ・慶應 元年 (1865) | 舞衣作成 |
| ・明治 25 年 (1892) | 舞衣作成 |
| ・大正 3 年 (1914) | 舞衣作成 フルドウサン用納箱新調 |
| ・昭和 10 年 (1935) | 祢宜衣装箱（上井弥三寄贈） |
| ・昭和 13 年 (1938) | 舞衣作成 大上殿鍵箱（北村安太郎（棚橋建具師）寄贈） |
| ・昭和 15 年 (1940) | 獅子頭修繕、納箱新調（北村安太郎製作、橋本年夫寄贈） |
| ・昭和 26 年 (1951) | 大上殿造営・楽張新調 |

- ・昭和 27 年（1952） 御頭神御書類入箱（北村安太郎寄贈）
- ・昭和 29 年（1954） 御神頭履歴書を表具し直す
- ・昭和 30 年代前半 この頃まで横笛の製作あり、笛には太夫名が彫られている
- ・昭和 31 年（1956） 祢宜衣装（山本裕敏、坂本住蔵、西田善吉寄贈）
- ・昭和 43 年（1968） 県無形民俗文化財に指定
- ・昭和 45 年（1970） 町 指定標柱設置、立紙丈木新調
- ・昭和 53 年（1978） 大上殿 玉垣門新築
- ・昭和 54 年（1979） 舞衣作成
- ・昭和 63 年（1988） 天狗面 鼻部修繕
- ・平成 6 年（1994） 幕新調
- ・平成 11 年（1999） 大上殿 造営
- ・平成 27 年（2015） 楽台新調

4. 獅子頭に関わる伝承について

棚橋の御頭神事には、今回修繕を行った「ダイジョウ（大上）」と呼称される獅子頭の他に、「フルドウサン」と呼称されるさらに古い獅子頭が伝わっている。神事では舞に用いず、神の依代として祢宜家に飾られる。

「フルドウサン」については、棚橋集落には言い伝えがある。大訳すると、「宮川上流の田間集落に祀られていた夫婦獅子が、集落で発生した火事で焼けないよう宮川に流したところ、雄獅子は棚橋集落に拾い上げられ、雌獅子は対岸の下久具集落に拾われた。それぞれの地区の神事では、離れ離れになった獅子の名を呼んで舞う」というものである。

この伝承の真偽は不明であるが、明治期に県へ提出された地誌調べの内容である『内城田村誌』の草稿中に伝承に係る記述を見つけることができた。関連部分の記述は下記の通りである。

棚橋ノ獅子頭 本村古傳ノ獅子頭ハ元田間村ニ在リシガ洪水ノトキ流れ来リシモノニテ下久具村ノ御頭ト夫婦ナリト云傳フ下久具村ノ獅子頭ハ元円座村に在リシガ「久具へ行カウㇿㇿ」ト呼ビシヨリ宮川ニ投流セシニ流レヲ溯リテ下久具ニ来リシモノナリト言傳フ然シテ円座村ノ獅子頭神事ハ御頭ナクシテ之ヲ行フモ奇ナリト。

この記述は、確認できる伝承に関する最も古いものである。記述では、1. 田間集落から流れてきたこと、2. 下久具の獅子頭とは夫婦であることが、現在の言い伝えと合致する。一方で、流された原因は「火事」ではなく「洪水」となっている。円座での神事内容も興味深い。

まとめ

今回、棚橋の御頭神事では、県教委や沖永文化振興財団・町教委の支援により数十年振りに獅子頭を修繕することができた。この修繕を通じて、これまでの神事関連の事象を改めて時系列にまとめ、神事が長年にわたり多くの地区住民の寄附を受け修繕や更新が図られてきたことが明らかにできた。また、長年懸案であった「ハガミ」の所作時に歯音を制限することも解消された。「ハガミ」は、集落の各要所で厄を祓う神事の重要な所作であるだけに、修繕によって神事本来の形に復することができたといえる。

（味噌井 拓志）